



年 組 名前

道新 ワークシート

住宅街に設置されているごみステーション=27日午前



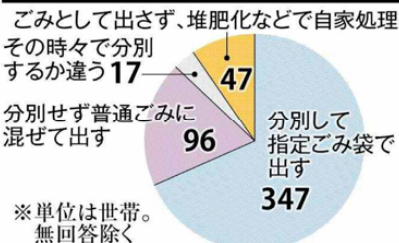
アンケートは4年おきに実施。21年度の調査は無作為に選んだ千世帯に調査票を送り、508世帯から回答を得た。

24年度に収集変更 周知へ説明会

【北広島】市が行ったごみの分別に関する市民アンケートの分析から、生ごみの2割弱が他のごみと一緒に捨てられていることが分かった。市は2024年度から家庭ごみの収集体制を大きく変更する予定で、今夏以降、地区別に説明会を開き分別徹底の周知を図る考えだ。

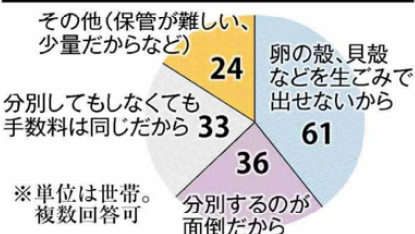
「生ごみ分別せず」2割 市が住民調査 分別徹底呼び掛け

生ごみをどのように処理しているか



「分別せず普通ごみで出している」が96(19%)、「ごみとして出さず堆肥化などで自家処理する」が47(9%)、「その時々で違う」が17(3%)など。分別しない人に理由を聞くと、「卵の殻や貝殻などを生ごみとして出せないから」が61(54%)、「分別が面倒だから」が36(32%)などだった。

生ごみを分別しない理由は



市によると、近年の家庭の生ごみの量は年間1400ト弱でほぼ横ばい。埋め立てている普通ごみを20年度に調べたところ、生ごみが2割ほど含まれていたという。

生ごみは、下水処理の課程で汚泥と混ぜて毎年700ト前後の乾燥肥料を製造し、発生するガスは施設の燃料として活用している。市環境課は「再利用したり、化石燃料の使用を減らせた」りするメリットを伝え、市民の分別意識の向上を図りたいとする。

市内のごみは24年4月から、道央廃棄物処理組合(北広島市、千歳市、空知管内栗山町など)市4町)が千歳市に新設予定の焼却施設で処理する。「埋め立て」から「焼却」に変わり、現在の「普通ごみ」は「可燃」と「不燃」に区分される。生ごみの区分は引き続き残る予定。

2022年5月28日(土)朝刊 札幌近郊版 16ページ (記事は再編集しています)

- ①北広島市は生ごみを分別(べつ)し、どのようなことに活用していますか。
- ②北広島市民(しみん)のうち、2割(わり)の人が生ごみを分別(べつ)していません。分別しない理由のうち、2番目に多い理由は何ですか。
- ③あなたが住んでいるまちでは、ごみ処理(しより)をするためにどのような工夫(くふう)をしていますか。まちの取組と自分の取組をそれぞれ書きましょう。

住んでいるまちの取組…【 _____ 】

自分がやっている取組…【 _____ 】